

プログラム名 (40字以内)	ラムサール条約湿地「宍道湖」・「中海」で水環境と生態系保全を考える		
団体名/所属	中海・宍道湖・大山園域市長会(松江市、出雲市、米子市、安来市、境港市)		
活動区分	農林水産業などに関わる地域体験活動	希望する選考方法	書類審査のみ
募集人数	4人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	特になし		
活動期間	2024/8月～9月の4泊5日	主な活動予定場所	中海・宍道湖・大山園域
プログラム実施の目的	ラムサール条約に登録された、「宍道湖」・「中海」を中心に、水産資源、観光、スポーツ等の振興を図る取組みに触れ、地域資源の有効活用による地域課題解決力を養います。		
具体的な内容(800字程度)	<p>1. 概要</p> <p>宍道湖と中海は、島根県と鳥取県の県境にある汽水湖で、全長7kmの大橋川によって結ばれています。この二つの湖によって形成される“汽水域”の広さは日本で最大規模となっています。両湖は同じ水系に属する汽水湖ですが、それぞれ特色があり、多様な自然環境を有しています。宍道湖には、日本一の漁獲量を誇るヤマトシジミなど多様な汽水性種が生息しているほか、わが国有数のガン・カモ類など240種以上の水鳥の渡来地です。中海は、260種以上の鳥類が確認されており、ガン・カモ類は年平均約75,000羽以上が渡来する国内最大級の越冬地となっています。</p> <p>両湖は環境保全だけでなく、湖の恵みを活用した様々な取組みが行われています。その代表例として、宍道湖のシジミ漁や夕景などが楽しめる多くの景勝地などが挙げられ、四季折々、地域住民だけでなく、多くの観光客が訪れています。</p> <p>近年、両湖には、シオガサやオゴノリという水草が大量繁茂し、シジミなどの水産資源や水環境に悪影響を及ぼしています。また、琵琶湖をはじめ、アメリカの五大湖など世界的にも水草が湖の水環境や生態系に大きな危機をもたらそうとしています。さらに、シジミは、日本一の生産量を誇るものの、漁業資材や燃油高騰、異常気象による水環境の変化など、漁業経営は厳しい状況にあります。</p> <p>このプログラムでは、両湖の水草刈り、漁業体験など水に関わる体験を通して、関係者の営みを学び、世界の水草対策なども踏まえ、宍道湖と中海における、現代の暮らしにあった水環境保全対策、水産資源の管理、漁業と食文化、景観と自然を生かした観光振興など、持続可能な環境保全と将来にわたる賢明な活用法を考えます。</p> <p>2. スケジュール概要</p> <p>8月下旬～9月中旬 現地学習・調査、体験活動 (4泊5日)</p> <p>予定:シジミ漁体験、サルボウ貝養殖場見学、保環研水質調査体験など</p>		
【総額】参加するための費用	64,120円		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	@9,900円×4泊=39,600円…① @5,000円×4泊分=20,000円(市長会補助分)…② 参加者費用 ①-②=19,600円		
【内訳】参加するための費用(交通費)	東京-松江(新幹線利用)@2,260円×2回=4,520円 域内の移動は基本的には市長会でを行います		
【内訳】参加するための費用(その他)	漁師との意見交換会・交流会 @2,000円×2回=4,000円		
奨励金額(予定)	25,000円		
備考	なし		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト	宍道湖漁業協同組合 : http://shiniko.jp/ 、 米子水鳥公園 : https://www.yonago-mizutori.com/ 、 宍道湖グリーンパーク : https://www.green-for.jp/gp/index.html 、 島根県宍道湖・中海対策推進室 : https://www.pref.shimane.lg.jp/shiniko_nakaumi/		
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)			
この企画に対する担当者(応募団体の参加の有無)	参加しない		